



SBC 設定の前提条件

SBC アプリケーションは、マルチサービス ブレード (MSB) および分散型ルート プロセッサ (DRP) の両方で稼働します。MSB は、SBC サービス カードとして機能するプライマリ ロールを保持しています。DRP での SBC の配置については、「[Cisco Carrier Routing System での SBC](#)」モジュールを参照してください。

ここでは、パッケージ インストール エンベロープ (PIE) サービス パッケージをインストールし、サービス カードとして機能する MSB の設定を完了するための詳細および参照先を説明します。

- [MSB への SBC PIE のインストール](#)
- [SBC サービス ロールの割り当て](#)
- [SBC サービスの作成およびサービス カードへの割り当て](#)
- [SBC SVI およびインターフェイスの IP アドレスの定義](#)
- [SVI のルーティングのイネーブル化](#)
- [アクティブ SBC サービス カードとしての MSB ステータスの確認](#)

SBC 設定の前提条件の実装機能の履歴

リリース	変更内容
リリース 3.3.0	SBC は、Cisco XR 12000 シリーズ ルータで導入されました。
リリース 3.4.0	SBC アプリケーションは、MSB でサポートされています。
リリース 3.5.0	SBC アプリケーションは、Cisco CRS-1 でサポートされています。 詳細については、「 Cisco Carrier Routing System での SBC 」モジュールを参照してください。
リリース 3.5.1	変更なし。

MSB への SBC PIE のインストール

MSB への SBC PIE のインストールおよびアクティブ化の詳細については、『[Cisco IOS XR Getting Started Guide](#)』の「[Upgrading and Managing Cisco IOS XR Software](#)」モジュールを参照してください。

SBC サービス ロールの割り当て

サービス ロールをサービス カードに割り当てる手順は、次のとおりです。

手順の概要

1. `configure`
2. `hw-module service sbc location prefer-active node-id`
3. `hw-module service sbc location prefer-standby node-id`
4. `commit`
5. `show services role`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure</code> 例: RP/0/0/CPU0:router# <code>configure</code>	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	<code>hw-module service sbc location prefer-active node-id</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>hw-module service sbc location 0/2/cpu0</code>	目的のアクティブ カードに SBC サービス ロールを割り当てます。 (注) 次の手順に進む前に、目的のアクティブ カードが、設定された SBC サービス ロールで起動するまで待ちます。
ステップ3	<code>hw-module service sbc location prefer-standby node-id</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>hw-module service sbc location 0/4/cpu0</code>	目的のスタンバイ カードに SBC サービス ロールを割り当てます。 (注) 次の手順に進む前に、目的のスタンバイ カードが、設定された SBC サービス ロールで起動するまで待ちます。
ステップ4	<code>commit</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>commit</code>	設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに設定変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、 <code>commit</code> コマンドを使用します。
ステップ5	<code>show services role</code> 例: RP/0/0/CPU0:sbc3# <code>show services role</code>	各サービス カードのサービス ロールを表示します。 Node Configured Role Enacted Role Enabled Services ----- 0/2/CPU0 SBC SBC SBC 0/4/CPU0 SBC SBC SBC

SBC サービスの作成およびサービス カードへの割り当て

このタスクでは、SBC サービスを作成し、サービス カードに割り当てる方法を定義します。

手順の概要

1. **configure**
2. **sbc service-name**
3. **service-location preferred-active node-id [preferred-standby node-id]**
4. **commit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例： RP/0/0/CPU0:router# configure	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	sbc service-name 例： RP/0/0/CPU0:router(config)# sbc mysbc	新しい SBC サービスを作成して、SBC コンフィギュレーション モードを開始するか、または既存のサービスのコンフィギュレーション モードを開始します。 <i>service-name</i> 引数を使用して、サービスの名前を定義します。
ステップ3	service-location preferred-active node-id [preferred-standby node-id] 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc)# service-location preferred-active 0/2/CPU0	SBC サービスに、プライマリ サービス ロケーション、およびオプションとしてセカンダリ サービス ロケーションを割り当てます。
ステップ4	commit 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc)# commit	設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、 commit コマンドを使用します。

SBC SVI およびインターフェイスの IP アドレスの定義

このタスクでは、SBC サービス仮想インターフェイス (SVI) およびインターフェイスの IP アドレスを定義します。SVI は、ルート プロセッサ (RP) カードで作成されます。

手順の概要

1. **configure**
2. **interface sbc number**
3. **ipv4 address**
4. **service-location preferred-active node-id [preferred-standby node-id]**

5. commit

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure</code> 例： RP/0/0/CPU0:router# <code>configure</code>	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	<code>interface sbc number</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>interface sbc1</code>	SBC インターフェイス（必要に応じて作成）のモードを開始します。引数 <i>number</i> は、1 ~ 2000 の範囲にしてください。
ステップ3	<code>ipv4 address address prefix</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-if)# <code>ipv4 address 99.99.109.10 255.255.255.0</code>	SBC インターフェイスに IPv4 アドレスを割り当てます。
ステップ4	<code>service-location preferred-active node-id</code> [<code>preferred standby node-id</code>] 例： RP/0/0/CPU0:router(config-if)# <code>service-location preferred-active 0/2/CPU0</code>	SBC サービス インターフェイスを SBC サービスに付加します。
ステップ5	<code>commit</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-if)# <code>commit</code>	設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、 <code>commit</code> コマンドを使用します。

SVI のルーティングのイネーブル化

このタスクでは、SVI のルーティングをイネーブルにします。次の例では、Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) ルーティング プロトコルを使用します。代わりに、他のルーティング プロトコルを使用することもできます。

手順の概要

1. `configure`
2. `router isis name`
3. `interface sbc number`
4. `passive`
5. `address-family ipv4 type`
6. `commit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure</code> 例: RP/0/0/CPU0:router# <code>configure</code>	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	<code>router isis instance-id</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>router isis coresbc1</code> RP/0/0/CPU0:router(config-isis)#	Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) ルーティング プロトコルをイネーブルにし、IS-IS インスタンスを指定します。この例では、IS-IS ルーティング プロトコルを使用します。代わりに、他のルーティング プロトコルを使用することもできます。
ステップ3	<code>interface sbc number</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config-isis)# <code>interface sbc1</code> RP/0/0/CPU0:router(config-isis-if)#	SBC 用のインターフェイスに IS-IS プロトコルを設定します。必要に応じて、インターフェイスが作成されます。引数 <i>number</i> は、1 ~ 2000 の範囲にしてください。
ステップ4	<code>passive</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config-isis-if)# <code>passive</code>	IS-IS パケットがインターフェイスに送信されないようにします。
ステップ5	<code>address-family ipv4 [unicast]</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config-isis-if)# <code>address-family ipv4 unicast</code>	標準 IP Version 4 (IPv4) および IP Version 6 (IPv6) アドレス プレフィックスを使用する IS-IS ルーティングを設定するために、アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ6	<code>commit</code> 例: RP/0/0/CPU0:router(config-if)# <code>commit</code>	設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、 <code>commit</code> コマンドを使用します。

アクティブ SBC サービス カードとしての MSB ステータスの確認

変換および設定された MSB で SBC サービスが適切に実行されているか確認するには、次のいずれかのコマンドを実行します。

<code>show platform [node-id]</code>	システムの各ノード（該当する場合は、特定のノード）の情報およびステータスが表示されます。このコマンドは、RP カードの EXEC コマンド モードから実行します。
<code>show processes sbcsvimgr</code>	SBC サービス カード上で稼働している使用可能でアクティブな SBC プロセスが表示されます。このコマンドは、MSB EXEC コマンド モードから実行します。

■ アクティブ SBC サービス カードとしての MSB ステータスの確認